公益社団法人 大阪自然環境保全協会２０２３（令和５）年度

事　業　報　告　書

2023（令和5）年4月1日から2024(令和6)年3月31日まで

公益社団法人 大阪自然環境保全協会

１．事業概要

2023年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定された。その中で、地域戦略を「策定済みの地域に おいても、今後、昆明・モントリオール生物多様性枠組や本戦略を踏まえた地域戦略の見直しが期待される」としている。大阪府議会では「生物多様性の保全・ネイチャーポジティブの対策の強化を求める意見書」を決議した。しかし、大阪府としての取り組みは具体的に示されておらず、協会としての自治体への働きかけは十分とはいえなかった。

自然環境調査研究事業では、里山や都市域の自然環境や生物多様性について調査・研究を行い、市民参加を促進して自然保護活動を推進した。具体的には、里山一斉調査や近郊里山の指標生物調査、万博記念公園や大阪におけるシカの保護管理、環境省のモニタリングサイト1000里地調査などを実施した。

- 万博記念公園や大阪におけるシカの保護管理、タンポポ調査やキツネプロジェクトなど各地域での自然環境保全に関する調査・活動も行った。また、自然環境保全上重要な地域の選定開発計画の調査・研究なども行われ、自然環境の保全に向けた取り組みを進めた。

自然環境保護保全活動事業では、大阪府外を含む地域で、自然環境や生物多様性の保護・保全活動が展開した。里山や水田の保全、共生の森づくり、生物多様性の保護、開発による損失への対応、夢洲の環境保護、土地トラスト活動を行った。トラスト地の自然共生サイトへの登録、30by30への参加、他団体や地域や大学との連携を通じて、環境保護活動を促進した。

自然環境保護の普及啓発活動には、多様な人材育成が不可欠である。ナチュラリスト入門講座や自然観察インストラクター養成講座などの講座を通じて、フィールドワーカーを育て、自然環境の理解と保全活動を促進した。さらに、地域活動や四季の一斉行事など様々なイベントを通じて、市民の自然体験を支援した。広報誌やウェブ図鑑、映画祭の共催などを通じて、自然環境に関する情報発信を継続した。また、子どもや障がいのある人たちを対象にした自然体験活動やオリジナルグッズの開発など、幅広い取り組みを行った。

公益法人の運営には、組織・法人機能の強化と連携が不可欠である。会員との交流を深める一方で、法人機能の整備や事務局の在り方、リスク管理を重視した。ビジョン委員会を通じて、次期計画策定と会員参加を促進し、活動の効果を最大化するよう図った。

———中　期　計　画———（前文より）

「自然を豊かに」

１．協会が培ってきた里山保全活動を、間伐などの森の整備にとどまらず、田畑や果樹園など里山農空間全体を保全する活動を展開します。

２．山、里、川、海の連環を踏まえ、都市部に残る公園、草地、水辺等の保全に取り組みます。

３．大阪府周辺の生物多様性保全を重視し、貴重な植生や希少種の生息地の調査や保全活動に取り組みます。
「社会を豊かに」
１．小さな子どもたちとその保護者世代や様々な興味をもった自然愛好者への自然保護教育を推進します。
２．自然保護活動を企画実践するボランティアを育成し、さらにたくさんの活動グループを生み出します。
３．政策提言や社会への働きかけを積極的に行います。
「活動を支援する」
１．自然が好きで、自然を守りたいと願う会員一人ひとりが、自分が必要だと思う活動、自分ができること、やりたいことを思う存分に実行できることを最優先して様々な会員向け企画を実施します。
２．会員制度の新設、会員支援のシステムの充実により、組織の強化を図ります。

※　2023年度は2019年～2023年の中期計画の5年目である。中期計画の詳細については「中期計画2019～2023」を参照。

２．事業報告

1.公益目的事業

当協会は公益目的事業を行った。

1.1　自然環境調査研究事業

里山をはじめ、都市域とその周辺などさまざまな環境における自然環境や生物多様性などについて、大阪府外も含め、継続的に調査・研究を行い、その特性や変化を把握するとともに、多くの市民参加を求めて、自然保護保全が運動として発展するように、以下の活動を行った。

1.1.1　里山一斉調査　【ＮＯＢ】（認1―ア）

野生動植物の生息空間としての里山の意義を普及するため行っている市民参加の観察調査。例年ほぼ同時期に同エリアで地域自然観察グループや他団体の協力を得て実施した。本年度は第41回を府内14、府外1コースで実施。延べ128人が参加した。

1.1.2　近郊里山の指標生物調査　【自然保護調査研究部】（認1―イ）

里山の様々な環境の指標となる100種の動植物の分布を調べることで、大阪近郊の里山の現状を明らかにして記録として残すために実施してきた里山指標生物調査については、コロナ禍で中断中。今後について検討を進め、2024年度より再開することとした。

1.1.3　万博記念公園野生生物生息調査　【受託事業】（認1―カ(1)）

万博記念公園の自然環境の現況を把握するとともに都市緑地の自然をより豊かにしていくため、大阪府からの調査業務を受託し調査と報告を行った。

1.1.4　野生シカ調査　【受託事業】（認1―カ(2)）

大阪におけるシカの保護管理について、今期も継続して、地域個体群の調査・生息域・他地域との回廊確保・農林業被害・森林生態系への影響などの調査を通じ、健全な生息のバランスを考

察する。里山委員会活動・ＮＯＢ活動と連動、地域の各主体と協働し、能勢町長谷地域や高槻市本山寺地域において、生息地管理・個体数管理・被害管理にアプローチした。大阪府のモニタリング調査「糞塊調査」については、今年度も継続して受託して実施した。

1.1.5　環境省モニタリングサイト1000里地調査コアサイトコーディネーター【受託事業】　（認1―カ(3)）

2005年より枚方市・穂谷の里山で実施しているモニタリングサイト1000里地調査では、環境省から本事業を受託している公益財団法人日本自然保護協会の依頼を受け、穂谷調査の調査員・調査分野間の連絡調整、会合の開催、地元との交流など、地域コーディネーター業務に取り組み、今年度から始まる第５期調査についてもこれを継続実施した。

1.1.6　環境省モニタリングサイト1000里地調査　【各グループ】（認1―ウ）

(1) 今年度から第5期調査（2023～2027年）が始まる環境省のモニタリングサイト1000の里地調査に参加して、次の一般サイトの調査を引き続き実施した。。

・紫金山公園：吹田自然観察会（植物相・鳥類・チョウ類）

(2) 府内の当協会提携団体およびその他の友好団体でも、以下の一般サイトの調査を引き続き実施した。

・千里緑地第２区：島熊山の雑木林を守る会（植物相）／富田林奥の谷：富田林の自然を守る会（植物相、チョウ類）／五月山公園：五月山グリーンエコー（植物相・鳥類・チョウ類・哺乳類）

1.1.7　高槻本山寺周辺域の森林保全　【協議会事務局】（認1―キ）

高槻市の大阪府自然環境保全地域の特別地区である本山寺のモミ・ツガ・アカガシ林の森林保全について、本年度も引き続き行政・地元と連携し、動植物調査、植生保護柵保全、市民への広報活動などの取り組みを進めた。国有林ではシカ駆除事業が実現。

1.1.8　サシバプロジェクト　【サシバプロジェクトチーム】（認1―ケ）

全国的に減少しているサシバとその生息環境を保全していくために、これまで行ってきた大阪府内の生息実態調査を継続し、アンケート形式での生息情報の収集、並びに繁殖が確認されている地域とその周辺の詳細調査を行った。同時に体験学習会を開催して、サシバを含む猛禽類の調査と保全活動ができる人材を育成した。また、これまでの調査結果の「データベース」化を進めた。また、他の里山の自然をテーマに活動するグループとの繋がりを拡げた。

1.1.9　タンポポ調査の実施　【タンポポ調査委員会】（認1―エ）

2024～2025年に実施する予定の大阪府におけるタンポポ調査に向けて準備を進めた。その際、1975年以来50年間にわたる調査の集大成を図るための計画を立案した。また、タンポポ調査・西日本実行委員会の事務局として、「タンポポ調査・西日本2025」の実施に向けて準備を進めた。

1.1.10　調査研究報告集の発行　【自然保護・調査研究部】（認1―ク）

研究・報告集として広く大阪とその周辺の自然に関する情報を共有するために、「ネイチャーおおさか・スタディファイル」の発刊を継続し、今年度は第7号を8月に発行した。

1.1.11　大阪湾生き物一斉調査への参画　【各グループ】（認1―ケ）

大阪湾環境再生連絡会が呼びかけて毎年実施している「大阪湾生き物一斉調査」に参画し、堺浜自然再生ふれあいビーチ、城ヶ崎、成ヶ島での調査を実施した。

1.1.12　その他の調査研究　【各グループ】

(1) キツネプロジェクト：野生哺乳動物の生息における市街地での残存緑地のポテンシャルを明らかにするため、主に北摂丘陵部において、大阪府レッドデータ種であるホンドギツネの新旧生息情報を大阪府立環境農林水産総合研究所・大阪大学と連携し集約した。また、市民への啓発にも努めた。。（認1―ケ）

(2) 自然環境と法律勉強会：継続して、自然環境において発生した諸問題に対する法律面からの調査・研究・提言活動をめざしたが、十分できなかった。（認２―エ）（認２―オ）－(3)

(3) 大阪府外も含めた生態系保全の視野も重視しながら、調査・研究・保全計画作成を中心とした自然環境資源の基礎調査、里地里山など地域自然環境の保全計画策定、市街地における緑地保全計画の作成、河川などの水域自然環境の維持・改善方法などの検討を進めた。

1.1.13　自然環境保全上重要な地域の選定と保全への取組み　【自然保護・調査研究部】（認1―ケ））

良好な自然環境が保たれ生物多様性の保全上も重要な地域を各地域グループの協力により抽出・選定してリストアップして、それらを「残したい大阪の自然」として会報誌「都市と自然」への掲載を続けた。また、関係自治体の都市計画や開発計画を調査・研究し、これらの自然が開発によって失われる前に把握できるしくみづくりについてはあまり進まず。各地域で情報を共有して、開発の動きに対応できるような組織づくりについてはオンラインでネットワーク会議を１回開催(2月22日、出席10名)した。とりあえずの第一歩を踏み出したことを評価する。

1.2　自然環境保護保全活動事業

調査・研究の成果を生かしつつ、大阪府外も含めて、里地里山・残存緑地・水辺・草地・水田などにおいて、その自然環境・生物多様性を保護保全するために具体的な行動としての事業を行い、保護保全をめざす活動の輪を拡げ、仲間づくり・技術の向上、施策への反映などを目的として以下の活動を行った。（認２）

1.2.1　里山・水田等農空間の保全

(1) 里山保全　【里山委員会】（認２―ア）―（1）

荒れた里山である針葉樹人工林の間伐や竹が侵入・拡大した森林の竹の除去作業をはじめ、クリ園再生など、地域における里山保全活動を安全に配慮して行った。また、里山林モデルづくりの取り組みを継続するとともに、里山林や人工林への竹林の拡大防止について検討した。

里山委員会(6月7日)、以下の里山グループや提携団体・友好団体と里山交流会（9月5日、5グループ10名出席）を持つが充分な役割は果たせなかった。また、新しいグループ（野崎観音・里山保全の会）の「生駒山麓花屏風活動」申請に協力した。里山交流会メーリングリストも立ち上げた。

主な事業実施は、太子町葉室里山クラブ（里山保全活動は毎月6～8回実施し、参加者数は延べ388人、この他に里山探検隊のイベントを13回実施し、延べ287人の参加があった。）／妙見里山倶楽部（里山保全活動を46回実施し、延べ508名の参加があった）／野崎観音・里山保全の

会（里山保全活動を8回実施し、延べ42名の参加があった）／穂谷里山保全チーム（里山保全活動に延べ33名の参加があった）／歌垣 SATOYAMA 楽舎（里山保全活動を38回実施し、延べ331名の参加があった
）

(2) 水田・里山農空間保全　【特定非営利活動法人大阪府民環境会議と協働・チーム農力隊】
（認２―ア）―（1）

生物多様性の宝庫と評価される水田・里山の農空間は全国的にも消失がいちじるしく、その保護保全が喫緊の課題となっているため、在来種マコモ（イネ科）を休耕等の水田で耕作・株分けして面積を拡げ、その肥茎マコモダケや葉を普及頒布する活動を茨木市内などで推進した。また、取り組みを拡充するため、葉を活用したマコモ産品を普及した。

1.2.2　共生の森づくり活動　【受託事業・事業部】（認1―カ）－(4)

堺第7-3区共生の森づくり事業に参画し、自然再生の場として、生き物調査(水生・陸生の動植物、鳥類)を実施する。また、本事業の意義や現状・計画などの普及啓発と人材育成を積極的に行う。従前の植栽木生長管理データを踏まえて、草地復元・全体を俯瞰した森づくり計画を、NPO 共生の森と協働して行っていく予定であったが、大阪府からの運営業務を落札できず実行不可となった。

1.2.3　生物多様性の保全・地域戦略普及等推進の取り組み　【生物多様性推進委員会】

生物多様性の保全や地域戦略の普及、その主流化などを進めるための取り組みを継続する。あわせてＳＤＧｓへの理解を広め、活動との連動を図った。

(1)自治体への対応

生物多様性地域戦略を策定済みの自治体や策定の動きがある自治体に対して、生物多様性保全のためにより有効な戦略の策定と運営、施策の実施、改定が行われるよう情報収集などを行った。（認２―オ）

(2)所有者不明土地への対応

全国に広がっている山林等の「所有者不明土地」（捨てられた土地）について、国に所有権移転できる法制度が制定済であるが、国有地の売却による開発などが相次いでいるため、自然環境・生物多様性の負荷を招かないよう情報収集などを行った。（認２―ア）―(2)

(3)生産緑地への対応

「生産緑地問題」により都市の農空間の減少が危惧されており、情報収集などを行った。（認２―ア）－(1)

(4)生物多様性が損われかねない社会問題・環境問題への対応

現実に直面している生物多様性が損われかねない社会問題・環境問題に対し、学習会・ミニ講座を開催する予定であったが、今年度は実施できなかった。（認２―オ）

1.2.4　開発等による自然環境・生物多様性損失への対応

市街化区域などでは現在でも旧来の都市開発等による自然環境・生物多様性の損失が続いている。こうした問題を予防するため、情報収集を行い、や保護保全活動取組みを検討した。

1.2.5　夢洲の未来の自然環境を考えるプロジェクト　【夢洲生きもの調査グループ】（認２－オ）

2025年大阪･関西万博の開催および跡地利用における自然環境の保全に関して、大阪府市での生物多様性保全・再生の機運を高めるものとなるように、以下の事業を行った。

夢洲現地：11回、コアジサシの営巣期間中の新島の調査：3回、他団体と協力しての行政への働きかけ：5回、シンポジウム開催（自然史フェスティバルにて開催・アーカイブ配信中)、図書館や博物館等での写真展：7回開催（延べ217日間、105,616人来館)、イベント会場でのワークショップ等：3回、フォトアルバム発行：2000部。

1.2.6　土地等トラスト活動　【土地等トラスト委員会】（認２―ア）－(2)

山林や残存緑地、農地等の自然環境・生物多様性は、相続や公共事業・宅地・太陽光パネル化等により消失・劣化しており、これらを予防的に保護するトラスト活動に継続して取り組む。現所有地3カ所について管理・調査を行った。また、活動資金の確保のため、助成金の獲得も継続した。

1.2.7　他団体との連携・支援・協力・ネットワークづくりなど　（認２―イ）（認２―ウ）

(1) 生物多様性・自然環境を損なう事業に対応し、地域の自然保護団体や環境関連団体との協働、活動連携、支援を継続する。地域的な開発問題についても情報収集し、地域会員や保護団体との連携をより強めた。

①「和泉市信太山丘陵里山自然公園協議会」に参画し、保全活動に参加した。

②堺市鉢ヶ峯の里山林における残土開発計画に反対し、「特別緑地保全地区」の指定拡大をめざしている地元団体を支援した。

③枚方市・穂谷の自然環境を保全していくため「穂谷森づくり委員会」に引き続き参画し、保全策の提案・協働などを行った。

④以下の里山保全グループ・観察会等と提携し、協会のグループとのネットワーク組織化に努力するとともに、自然保護活動や普及啓発活動等に協力・協働した。

＜提携団体・友好団体＞＝五月山グリーンエコー、富田林の自然を守る会、交野里山ゆうゆう会、八尾・神立里山保全プロジェクト、紫金山みどりの会、池田自然観察会、狭山の副池自然づくりの会、水曜ハイキング倶楽部、千中自然体験オアシス、西大和ネイチャークラブ、箕面ナチュラリストクラブ・あまの街道と陶器山の自然を守る会・NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・今米緑地保全会（順不同）

⑤公益財団法人大阪みどりのトラスト協会と交流・情報交換などの活動協力協働を進め、里山などの自然環境・生物多様性保全の取り組みを推進した。12月8日の「里山保全セミナー（大阪さともり地域協議会主催）」に参加した。

⑥公益財団法人三菱ＵＦＪ環境財団と協働し、関西の里山保全活動や植樹など緑化計画に関する情報の収集、共有を図った

⑦当協会は以下の団体の会員となっており、これを継続した。

1）特定非営利活動法人大阪府民環境会議、2）特定非営利活動法人エコネット近畿

⑧下記ネットワークへの参画も継続し、同様に行政や地域組織、企業、団体などとの協働・交流を進めた。

1)脱ダムネット関西、2)大阪生物多様性保全ネットワーク、3)生物多様性かんさい、4)おおさか環境ネットワーク、5)淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

⑨川・ため池のネットワークを構築する。「街中でも子どもが安心して遊べる水場」をテーマ

に活動をめざし9月に現地調査も実施したが、充分活動できなかった。

⑩ダム問題に対して、脱ダムネット関西の事務局として、メーリングリストによる情報交換の場を提供した。【ダム問題研究会】（認２―ウ）

⑪公益財団法人ＳＯＭＰＯ環境財団の環境ＣＳＯ学生インターンの受け入れ団体を本年度も継続した。（認３）

⑫ 奈良公園鹿調査（立沢史郎氏・奈良鹿愛護会主催）に協力した。

(2) 大学連携プロジェクトでは、学生インターンシップなどで大学との連携を深め、学生インターンシップでは2名、大学コンソーシアム大阪のインターンシップには3名が参加した。。（認２―エ）

1.3　自然環境保護保全の人材養成・普及啓発事業

自然環境の保護保全を行い賛同者の輪を拡げていくためには、自然環境を体験的に学んで知り、それを人に伝えて普及啓発する人材の確保・増加が欠かせない。そこで、普及啓発・保護保全ができる人材養成及び一般への普及啓発を目的に、以下の活動を行った。

1.3.1　自然環境保全に関する人材養成講座の開催　【普及部】（認３）

保全活動のための人材養成および一般市民への自然保護思想の普及のため、各種講座を開催した

(1) 第48期ナチュラリスト入門講座 … 哺乳動物を主とした里山の野生生物の観察を中心に、座学とフィールドで自然を学び観て考える目を養い、フィールドワーカーを育てる講座。10月～3月に開催し、6名が修了した。（認３―ア）－Ｂ）

(2) 第31回自然観察インストラクター養成講座 … 自然の感動を伝え、拡げるための自然観察インストラクター養成を目的とした講座。4月～12月に開催し、20名が受講して14人が全課程を修了した。（認３―ア）－Ｃ）

(3) 第30回自然かんさつ塾 … 自然に親しもうとする人を対象に、植物や野鳥などの座学と野外実習を通して、その手法を伝える入門講座。春期は4月～6月に20名が受講し秋期は10月～12月に18名が受講した。（認３―ア）－Ｄ）

(4) 第20期自然環境市民大学 … “動植物・生態系やその保全について体験的に学び自然環境の保全をより拡充・実践する新たな人材”を養成し、里山保全・自然環境学習・環境保全への社会的要求に応えるための講座を、前年9月～今年7月に開講し、15名が修了した。。（認３―ア）－Ａ）

(5) 新・里山講座 …里山に関心を寄せる人々に、保全活動に必要な知識と技術を習得して頂く入門講座。今年度は休講し、運営方法の検討・準備期間として、来年の再開をめざした。（認３―ア）－Ｆ）

(6) プロジェクト・ワイルド・エデュケーター養成講習会 … 野生生物をテーマとした環境教育プログラムの企画・進行を体験的に身につける講習会として、本編、水辺編、鳥編等の指導者講習会を計4回実施し、延べ20人が受講した。（認３―ア）－Ｅ）

(7) 主催講座修了生の会を運営し、講座の支援や公開観察会、研修会等を実施した。

①ＮＯＢ：ナチュラリスト入門講座の修了生の会。講座を運営するほか、様々な取り組みを行い生物多様性保全に資するため様々な取組みを行った。（認３―ア）－Ｂ）

②そよごの会：自然観察インストラクター養成講座の修了生の会。観察会リーダーのための研修、情報交換等を行った。。（認３―ア）－Ｃ）

③空の会：自然環境市民大学の修了生の会。植物部会、野鳥部会、昆虫部会、水生生物部会、自然工作部会を運営し、調査、研究、研修会、自然観察会などの行事等を行った。（認３―ア）－Ａ）

④環境共育プログラム研究会：プロジェクト・ワイルド講習会の修了生を中心に、教育プログラムのファシリテーターの人材育成のための取り組みを行い、プログラム実践の場を生み出し、環境教育を推進するもの。今年度は実施しなかった。（認３―ア）－Ｅ）

⑤シャシャンボの会：新・里山講座修了生の会。講座をスタッフとして支援するとともに、里山活動に関する情報交換などを行った。（認３―ア）－Ｆ）

1.3.2　自然観察会などの地域活動・自然体験　【普及部】（認３―イ）

地域観察会およびテーマ観察会を以下の通り開催した。

(1)堺自然観察会…鉢ヶ峯や泉北ニュータウンなどで10回開催し、116名の参加があった。

(2)吹田自然観察会…観察会を8回実施、モニタリングサイト1000の調査を29回実施し、延べ445の参加があった。主に吹田市内で開催。

(3)服部緑地自然を楽しむ会…服部緑地公園で5回開催し、延べ47名の参加があった。

(4)えぼしがた公園自然観察会…烏帽子形公園・天見地区（河内長野市）で7回開催し、169名が参加した。また、国史跡公園となった烏帽子形公園の生物多様性を維持するために、水辺の復活を推進した。

(5)枚岡ネイチャークラブ…枚岡公園、東大阪市、生駒山系で自然観察会ネイチャークラフト・屋敷林保全や山地保全を10回実施し、延べ234名の参加があった。実施する。

(6)海の観察会…大阪湾沿岸の磯や干潟で海岸生物の観察会を開催。今年度は「長松海岸の磯の観察会」、「城ヶ崎の生き物観察会」（大阪湾生き物一斉調査に参画）、「アマモ場の観察会」、「近木川のカニつり」、「岡田浦地曳網体験」、「大阪湾シュノーケリング体験」、「男里川河口干潟の観察会」、「ウミホタル観察会」を実施し、のべ10回で計246名が参加した。

(7)みんなでかんさつ隊…鶴見緑地等、大阪市内を中心に4回開催し、のべ90名が参加した。

(8)枚方しぜんハイキング…毎月一回、穂谷の定例コース・チョウの調査、第3日曜に10回里山散策を実施し、20名の参加があった。

(9)大和川自然観察会…江戸時代からの半人工河川ともいえる大和川で、野鳥・昆虫などの観察を通して、自然を考える。観察会を8回実施し、延べ73名の参加があったが、今年度で終了することとなった。

(10)茨木・高槻自然に親しむ会…茨木市・高槻市で観察会を7回実施し、延べ35名が参加した。茨木市の環境調査に参画した。

(11)堺浜自然観察会…「堺浜自然再生ふれあいビーチ」で１回開催し、20名の参加があった。大阪湾生き物一斉調査にも参画した。

(12)まち中公園自然観察隊…「まち中の公園でも自然の移ろいは体感できる。」をコンセプトに親子参加型のユニバーサルな観察会を4回開催し、延べ165名の参加があった。

(13)チリモン自然観察会…こどもとその保護者を対象としたチリモンプログラムを1回実施し、15名の参加があった。

(14)大阪湾スナメリ観察応援隊…岡田浦漁協の漁業体験とコラボレーションしたスナメリクル

ージングを検討したが、実施できなかった。

(15)砂浜観察会…微小貝さがしなど砂浜での環境調査、環境教育活動を11回実施し、延べ203名の参加があった。また、タカラガイを中心とした観察会を5回実施し、延べ60名の参加があった。

(16)大阪湾ウミウシ観察会…ウミウシをテーマにした自然観察会を13回実施し、延べ215名の参加がった。また、大阪湾等のウミウシの生息状況調査を随時実施した。鹿児島におけるウミウシ観察会を7回実施し、60名が参加した。

(17)長松海岸自然観察会…岬町長松海岸での自然観察会や岡田浦での地引網など「子どものための海の生き物体験」として12回開催し、延べ407名の参加があった。

(18)team.虹鰓（チームにじえら）…成ヶ島エコツアーを2回、若狭湾ツアーを2回開催し、延べ79名の参加があった。海洋プラスチック問題に対応した。

(19)くまむしぐみ…幼児向け環境共育プログラムを年3回実施し、延べ55名に参加があった。

(20)むしとりぐみ…身のまわりの鳥や虫などを素材とした環境共育プログラムを12回実施し、延べ114名の参加があった。神奈川県で実施した。

(21) カレーライスを本当に手作りするプロジェクト…米、野菜、スパイスを栽培するなどの体験を通じて、身近な食べ物が生き物の恩恵によって作られていることに気づき、それらを生み出す里山の意義を学ぶプログラムを運営した。48回のイベントを開催し、延べ768人の参加があった

1.3.3　四季の一斉行事　【普及部】（認３―イ）

四季の一斉行事として、大阪府下各所で統一テーマの自然観察会を実施することにより、身近な自然体験活動の輪（協会、友好団体事業等）を広げていく。今年度は、実施団体の拡大と連携を図るため、広報の充実、マニュアル等の作成、研修会等を実施して、各観察会グループへのバックアップや市民への浸透を図った。

(1)春：4月に「第2回タンポポしらべ隊」を実施した。

(2)夏：7月～8月に「第12回セミ羽化ウォッチング」を実施した。また身近なセミ羽化観察会の輪を広げるため、リーダー養成講習会を実施した。

(3)秋：10月～11月に「第29回どんぐりまつり」を実施した。

(4)冬：1月～2月に「第4回冬鳥ウォッチング」を実施した。

1.3.4　講師・スタッフ派遣・受託事業　【事業部】（認３―ウ）

行政やその関係機関、図書館、民間事業団体などが主催する自然環境保全に関する講座や講演、自然観察・体験指導などの普及事業、里山保全やその指導者養成講座や技術的指導などに、講師・スタッフを派遣した。また、外部団体に対して事業依頼の提案にも取り組んだ。　大阪市内の小学校30校での年2回の生きもの調査を受託し、講師サポーターなど子ども達が生きものと触れ合う支援をした。また、民間企業等のSDGｓへの取り組みに参与して長岡京市での植林活動をサポートした。

こうした外部からの依頼事業については、「対外自然協力隊」を継続運営し、主に講師・ボランティアスタッフ派遣事業に対応した。対外自然協力隊の活性化のため、隊員が派遣事業に積極的に参加できるように声かけなどを実施した。

上記の受託系事業については、運営等人材が高齢化・固定化しているため、新規育成と世代交代

を図るため、若者など新たな人材をプラットホームに呼び込み、積極的に起用するようにした。

1.3.5　広報誌「都市と自然」の発行　【編集委員会】（認３―オ）

大阪をはじめ近畿などにおける自然環境・生物多様性の保護保全について情報発信するため、広報誌「都市と自然」を合併号で隔月の６号を発行した。

(1)表紙写真企画：昨年度から始めた「野鳥に親しむ」をテーマにした大阪近郊の野鳥の写真と解説文の連載を今年度も継続した。

(2)Tomorrow：今年度から新たに「各分野の専門家から見た環境問題の今~~（仮題）~~」と題して、環境問題の各分野の専門家に依頼して、今、市民が環境問題に取組み取組む際に考えないといけないポイントを執筆していただいた。

(3)一昨年度より始めた次の2つのシリーズは継続した。

①「残したい大阪の自然」について会員から紹介していただいた。

②「暮らしの今昔」として自然を活用した生活の知恵について紹介した。

(4) 今年度から新しく「読者のひろば」のコーナーを作り、「都市と自然」の記事についての感想や、保全協会のイベントに参加しての感想などの投稿を随時掲載した。

(5)「都市と自然」の第1号から47年間の記事のデータベース化を進め、登録した会員が閲覧できるようにする取組みを進めた。

1.3.6　広報活動の充実　【広報部】（認３―オ）

(1)

協会 PR パネル等を制作し、イベント等の展示ブースで活動を PR した。

(2)協会の PR ツール（パンフレット等）を作成し、効果的配布を図った。

(3)ＨＰと連動する情報発信ツールとしてＳＮＳ（Facebook・twitter など）を活用した。

1.3.7　ホームページの運営　【ホームページ委員会】（認３―オ）

(1)協会の広報メディアとしてのホームページを運営し、スマートフォン対策を継続した。各グループでの更新等、常に改善・充実を図った。

(2)「都市と自然」の記事の一部をホームページに掲載するなど、直近の活動に関する情報発信機能を継続した。

1.3.8　「チリモンＷＥＢインタラクティブ図鑑」の運営　【チリモン自然観察会】（認３―カ）－(1)

チリメンモンスターの検索、同定の助けとなる教材（ＷＥＢ図鑑）を継続して運営した。またチリモン図鑑パンフレットの有償配布（本体価格、送料、振込手数料は受益者負担）を継続した。

1.3.9　「微小貝さがしサポート図鑑」の運営　【砂浜観察会】（認３―カ）－(2)

微小貝の同定、海岸の検索の助けとなる教材（ＷＥＢ図鑑）を継続して運営した。また微小貝図鑑パンフレットの無償配布（送料、振込手数料は受益者負担）を継続した。

1.3.10　第10回「生きている地球の記録 in 大阪」の共催　【担当理事・岡】（認３―カ）－(3)

公益財団法人三菱ＵＦＪ環境財団が主催する「グリーンイメージ国際環境映画祭」入賞作品の大阪上映会の開催に参画し、これを共催した。運営には、若者など新たな人材を起用した。

1.3.11　親子向けフリーペーパー「しぜんにタッチ」の協働発行　【しぜんにタッチ編集チーム】（認３―カ）－(4)

HOTARU 株式会社の吸収統合により、親子向けフリーペーパー「しぜんにタッチ」の協働発行は保留となった。

1.3.12　その他の普及啓発事業　【普及部・広報部】（認３―カ）―(6)

(1) 自然保護問題に関する講演会や学習会などを必要に応じて開催する。ジュニア会員の普及・拡大に努め、幼児、小学生の家族を対象とした親子自然体験教室を実施した。

(2) 自然環境やその保全、生物に関する意識、知識、理解などを広く市民に伝えるため、協会発行・制作の書籍や物品を頒布した。

(3) 障がいのある人たちとの自然観察会をめざしたが、実施できなかった。

オリジナルグッズ開発プロジェクト：協会独自のグッズを開発、それらの普及活動を通じて、協会会員および一般市民の環境保全意識を高めた。

(4) ジュニア会員や高校生の自然環境保全活動を奨励する仕組みを検討した。

2. 法人組織運営

これらの公益目的事業活動を支え進めるうえで、組織・法人機能の充実、維持・管理、および人的ネットワークの充実などが欠かせない。さらに、これらすべての活動を方向付けるビジョンを明確に示し、会員・法人などの活動がより効果的に自然環境の保護保全につながるように、以下の活動を行った。

2.1　組織・法人機能の充実　【７部会・事務局】

公益社団にふさわしい法人の維持運営・充実化のため、事務所の整理整頓を進めるとともに、引き続き規程類の整備充実、文書管理のシステム化、それらに必要なＩＴ機器やソフトウェアの導入更新などを行った。

(1)理事会（理事）の7部体制・事務局 … 自然保護・調査研究部／普及部／事業部／総務部／広報部／土地等トラスト委員会／ビジョン委員会（ともに部扱い）と事務局とで、理事会・各部の機能をより高め連携を行った。また、理事会・部会の構成員や受託系事業要員（事業部）が高齢化・固定化に対し、より若い世代や新しい人材が理事・代表理事・部員・要員を担っていけるよう、呼びかけをしつつ、仕組みづくりや世代交代を継続、推進した。

(2) 会員・グループなどの交流、連携 … 生物多様性保全などへの関心の高まりなどから協会への社会的要請に対応する必要性がいよいよ高まっており、理事会や各活動グループ、会員、事務局、他団体などの連携を推進するため、会議の内容・テーマ設定などを再検討し、交流・協働の取り組みを強化した。具体的には、以下の通り。

①主催講座および各修了生の会の相互連携、活性化のため、「主催講座連携検討会議」の実施を計画したが、できなかった。

②観察会グループ同士の相互連携・活性化のため、3月4日に「観察会連絡会」を実施した。

③観察会グループ幹部の高齢化対策、各観察会・講座スタッフの研修会を検討したが実施はできなかった。

2.2　公益法人の維持運営・改革　【総務部・事務局】【プロジェクトチーム】

(1)維持運営…公益社団法人として、公益法人の諸条件を堅持し、保護保全事業を主体的、積極的に展開した。

・会員制度・組織・事業内容・財務会計などの点検・改善・業務の見える化に引き続き取り組み、法人全体で収支改善の努力を行った。

・コンプライアンスに関する担当理事を置き、常時、協会運営・協会活動が適正に行われているかを検証し改善に努めた。内部通報はなかった

・ボランティア事務局継続したが、理事以外のスタッフを増やすことや若い世代・新しい人材を育てることはできなかった。「未来の事務局を考える委員会」を立ち上げ、事業の活性化を図るため、望ましい事務局体制の検討と具体的計画の立案を試みた結果、事務局の方向性の指摘と提案にとどまった。会計説明会など具体的な提案の一部は実施した。

・会員数は本年度900人を目標としたが、年度末現在の会員数は810人で目標は達成できなかった。ジュニア会員制度の継続は会員数の維持に貢献した。

(2)特定資産…特定資産のあり方については具体的な検討には至らなかった。

(3)活動拡充＆協会名改称推進検討チームプロジェクトは、、事業活動を他府県にも拡充するよう、他団体の情報収集や働きかけ等を行った**。また、**自然開発問題の対応などですでに府外での活動を展開していることなどから、協会名称中の「大阪」は不要と判断し（必要との意見もある）その削除を含めた改称を目ざして、検討・調査や計画案づくり、理事対象のアンケートを行った。

2.3　リスクマネジメントの充実　【総務部】

活動参加者の安心・安全の充実を図るため、主に事故情報とヒヤリハットの共有化および分析、研修会の実施(12月6日にオンラインでクマ対策学習会を実施)ボランティア保険の加入等を継続して行った。安全管理マニュアルの改訂はできなかった。

2.4　ビジョン委員会の運営　【ビジョン委員会】

ネイチャーおおさかミーティングでお会員間交流により会員拡大に繋がる企画を検討した。また、各活動グループからの重点目標を集約して、ビジョンづくりフォーラムで会員による検討を行い、次期中期計画（2024～2028年）及び重点目標を策定した。

2.5　50周年記念事業の実施に向けての準備　【総務部・事務局】

1976年創立の当協会は2026年に50周年をむかえる。今年度は準備委員会を設け、事業の内容や方法、資金積み立てなどについての検討には至らなかった。

以　　上